

21.06.2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 8月21日

出願番号
Application Number: 特願2003-297049

[ST. 10/C]: [JP2003-297049]

出願人
Applicant(s): 株式会社東海

REC'D 06 AUG 2004

WIPO PCT

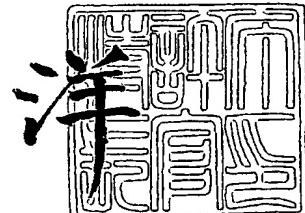
BEST AVAILABLE COPY

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 7月23日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 P27869J
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H01M 8/04
B65D 81/00

【発明者】
【住所又は居所】 静岡県駿東郡小山町須走下原 3-4 株式会社 東海本部工場内
【氏名】 中村 保昭

【発明者】
【住所又は居所】 静岡県駿東郡小山町須走下原 3-4 株式会社 東海本部工場内
【氏名】 白井 秀人

【発明者】
【住所又は居所】 静岡県駿東郡小山町須走下原 3-4 株式会社 東海本部工場内
【氏名】 小見山 聰

【特許出願人】
【識別番号】 000151265
【氏名又は名称】 株式会社 東海

【代理人】
【識別番号】 100073184
【弁理士】
【氏名又は名称】 柳田 征史

【選任した代理人】
【識別番号】 100090468
【弁理士】
【氏名又は名称】 佐久間 剛

【先の出願に基づく優先権主張】
【出願番号】 特願2003-270600
【出願日】 平成15年 7月 3日

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 008969
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 0101165

【書類名】特許請求の範囲**【請求項1】**

燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し燃料を注入するための注入バルブと、前記容器本体と前記内容器との間に封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給することを特徴とする燃料電池用燃料容器。

【請求項2】

燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するとともに内容器内に燃料を注入するためのバルブ機構と、前記容器本体と前記内容器との間に封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給することを特徴とする燃料電池用燃料容器。

【請求項3】

燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構と、前記容器本体と前記内容器との間に、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器の燃料圧力より高く設定された圧力で封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に直接燃料を供給する前記燃料容器へ燃料を再注入することを特徴とする燃料電池用燃料容器。

【請求項4】

燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、内部に前記燃料を収容するシリンドラ状の容器本体と、この容器本体内を気密状態で摺動し前記燃料を加圧する手動操作されるピストン状の押出部材と、前記容器本体に設置され収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構とを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器へ燃料を再注入することを特徴とする燃料電池用燃料容器。

【請求項5】

前記容器本体が透明材料で構成されてなることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の燃料電池用燃料容器。

【書類名】明細書

【発明の名称】燃料電池用燃料容器

【技術分野】

【0001】

本発明は、固体高分子型燃料電池（P E F C）などの燃料電池に供給するメタノール水溶液などの燃料を収容し、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料電池用燃料容器および燃料電池に装着して用いる燃料容器に燃料を再注入する燃料電池用燃料容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来の溶液を収容する容器としては、例えば、エアゾール容器、化粧品容器などがあるが、その容器本体には、ガラス、金属、プラスチックが使用されている。これら容器内は加圧されることで、ノズルを開作動した際に、内部の溶液が噴霧状に流出して使用に供される。

【0003】

上記のような容器においては、そのノズルを閉方向に付勢する付勢部材としてスプリングが使用されている。このスプリングとしては、コストや使い勝手から金属製コイルスプリングを用いるのが一般的であるが、リサイクル率を高めるために、付勢部材を樹脂製の筒状弾性材で構成した構造が提案されている（例えば、特許文献1参照）。

【特許文献1】特開平11-90282号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、例えば携帯用パソコン（ノートパソコン、P D A等）その他の機器の小型電源として燃料電池の使用が検討されているが、この燃料電池に燃料を供給するための燃料容器が必要とされ、その燃料としては例えば固体高分子型燃料電池（P E F C）にはメタノールに純水またはエタノールに純水を加えたもの、または純メタノールまたは純エタノールが使用される。また、固体酸化物型燃料電池（S O F C）や固体高分子型燃料電池（P E F C）にはジメチルエーテルの使用が期待される。

【0005】

しかしながら、固体高分子型燃料電池（P E F C）や固体酸化物型燃料電池（S O F C）などの燃料電池では、金属イオンの混入を極度に嫌うため、燃料容器においては収容した燃料に金属イオンが混入しないように構成する必要があることが判明した。

【0006】

燃料と接触する部材に金属を用いることはイオンが発生することから不適切であり、この金属に樹脂をコーティングしても樹脂皮膜のピンホールによってイオンの発生は避けられない。また、燃料容器に内圧を加えて、この内圧によって燃料を噴出供給させる場合に、噴出材と燃料が混合供給されることも好ましくない。

【0007】

また、上記燃料容器の形状は、燃料電池本体もしくは燃料電池を搭載しているノートパソコン等の機器における燃料容器収容部の形状等に応じて設定されるもので、特定の機種に応じた特定の形状に設けられ、このような燃料容器を燃料消費に応じて使い捨てにするのはコスト的に不利であるとともに、入手困難となりやすく利便性に欠ける問題を有する。

【0008】

本発明はこのような点に鑑みなされたもので、金属イオンおよび噴射材が混入しないとともに繰り返しての使用が可能な燃料電池に装着する燃料電池用燃料容器および燃料電池に装着する燃料容器に燃料を再注入する燃料電池用燃料容器を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明の燃料電池用燃料容器は、燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し燃料を注入するための注入バルブと、前記容器本体と前記内容器との間に封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給することを特徴とするものである。

【0010】

また、本発明の他の燃料電池用燃料容器は、燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するとともに内容器内に燃料を注入するためのバルブ機構と、前記容器本体と前記内容器との間に封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給することを特徴とするものである。

【0011】

さらに、本発明の他の燃料電池用燃料容器は、燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、密閉構造を有する容器本体と、該容器本体内に設置され内部に前記燃料を収容する可撓性袋で構成された内容器と、前記容器本体に設置され前記内容器の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構と、前記容器本体と前記内容器との間に、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器の燃料圧力より高く設定された圧力で封入された燃料噴出用の圧縮ガスとを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に直接燃料を供給する前記燃料容器へ燃料を再注入することを特徴とするものである。

【0012】

さらにまた、本発明の他の燃料電池用燃料容器は、燃料電池に供給する燃料を収容する燃料容器であって、内部に前記燃料を収容するシリング状の容器本体と、この容器本体内を気密状態で摺動し前記燃料を加圧する手動操作されるピストン状の押出部材と、前記容器本体に設置され収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構とを備え、前記燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなり、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器へ燃料を再注入することを特徴とするものである。

【0013】

前記各燃料電池用燃料容器における容器本体を透明材料で構成するのが好適である。

【0014】

本発明燃料容器は、燃料がメタノールと純水またはエタノールと純水、もしくは純メタノールまたは純エタノールであり、固体高分子型燃料電池（P E F C）の燃料供給用であるものが好適である。また、固体酸化物型燃料電池（S O F C）や固体高分子型燃料電池（P E F C）の燃料としてはジメチルエーテルも使用可能である。

【発明の効果】**【0015】**

上記のような本発明によれば、密閉構造を有する容器本体と、燃料を収容する内容器と、燃料の供給を開閉するバルブ機構とを備え、燃料と接触する構成部材を全て非金属材料で構成し、容器本体と内容器の間に圧縮ガスを封入したことにより、燃料のみを噴出供給することができ、さらに、収容した燃料が金属と接触せずに金属イオンの混入が防止でき、特に固体高分子型燃料電池（P E F C）などの燃料電池では供給するメタノール水溶液またはエタノール水溶液などの燃料に金属イオンが存在することが極端に嫌われるが、上記部材の非金属化によって金属イオンの溶出が防止でき、燃料電池の性能を損なうことがなく、燃料が再注入可能で燃料電池に装着して直接燃料を供給する燃料容器または燃料電池に装着して直接燃料を供給する燃料容器へ燃料を再注入する燃料容器が構成できる。

【0016】

つまり、燃料を再注入する注入バルブをさらに備えた燃料容器、または、燃料の供給と注入が行えるバルブ機構を備えた燃料容器では、燃料再注入用に構成された燃料容器を使用することによって、ユーザーが簡単に燃料の再充填が可能で、繰り返しての使用ができる使い捨てでないことでコスト的に有利であるとともに、機種に対応した形状の自由度が高められ、注入用の燃料容器の汎用化を図ることで追加燃料が入手しやすく、利便性が向上できる。

【0017】

特に、燃料電池に接続するバルブ機構とは別途に注入バルブを備えた燃料容器では、この燃料容器を燃料電池に装着した状態で注入バルブより燃料の再注入が可能である。一方、燃料の供給と再注入が行えるバルブ機構を備えた燃料容器では、この燃料容器を燃料電池より取り外して燃料の再注入を行うことになるが、別途の注入バルブを省略して構造の簡素化が図れる。

【0018】

一方、容器本体と内容器との間に封入した圧縮ガスの圧力を、燃料電池に装着して該燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器の燃料圧力より高く設定した燃料容器、または、シリンダ状の容器本体と手動操作されるピストン状の押出部材とを備えた燃料容器では、燃料電池に直接燃料を供給する燃料容器への燃料の再注入が行え、その形状は任意であって、燃料収容量の自由度、携帯性等を考慮して各種形態に構成して利便性が向上できる。

【0019】

前記容器本体を透明材料で構成すると、燃料残量および再注入状態が監視できて好適である。

【0020】

また、燃料容器の樹脂化に伴い次のような効果がある。容器形状が円筒形、多角形、橢円などの様々な形状に形成可能である。分別廃棄がしやすくリサイクルに適する。手に触れたとき、金属のような冷たさがなく温感がよい。腐食による内容物の変化が起きにくく。

【発明を実施するための最良の形態】**【0021】**

以下、本発明の実施の形態を詳細に説明する。図1は一つの実施の形態における燃料電池に装着して使用する燃料電池用燃料容器の概略断面図、図2はバルブ機構の設置例を示す要部断面図である。

【0022】

本実施形態の燃料電池用燃料容器1は、所定濃度のメタノールと純水またはエタノールと純水もしくは純メタノールまたは純エタノールを燃料電池用燃料Fとして収容し、固体高分子型燃料電池（PEFC）などに燃料を供給するためのものであり、不図示の燃料電池本体に装着され、後述の注入用燃料容器10, 20などを用いて燃料Fの再注入が可能であり、繰り返して使用される。

【0023】

前記燃料容器1は、図1に示すように、外形を構成する外側の容器本体2と、この容器本体2の内部空間に配設され内部に前記燃料Fを収容する可撓性袋による内容器3と、内容器3の内部から容器本体2の外部に連通する上部の供給口2aを開閉して収容した燃料を供給するバルブ機構4と、上記供給口2aと反対側の底部における内容器3の内部から容器本体2の外部に連通する注入口2bを開閉して燃料を注入するための注入バルブ5と、前記バルブ機構4から内容器3の内部空間に挿入されるディップチューブ6とで構成される。そして、これらを構成する全ての部品、特に燃料と接触する部品が非金属材料、すなわち樹脂にて構成されてなる。また、容器本体2と内容器3との間は気密に形成され、その空間に内容器3に対し燃料Fの噴出用圧力を加える圧縮ガスGを封入してなる。

【0024】

容器本体2は密閉ボックス状でその形状は、不図示の燃料電池本体もしくは燃料電池を

搭載しているノートパソコン等の機器における燃料容器収容部の形状等に応じて設定される。また、その形状は所定の内容積を確保する上で任意に設定変更可能であり、収容圧力に対する耐圧強度を確保する構造および壁厚みに設けられている。この外側の容器本体2は、内容器3の形状に基づき燃料残量が確認できるよう、透明材料、例えば透明性を持つたPC, PAN, PEN, PET等の成形品で構成している。

【0025】

一方、内容器3は、燃料に対する耐性を有し、ゴム膜か、PAN, PEN等のシートにセラミックを蒸着させたもの、PE, PP等のシートに金属箔（例えばアルミ箔）を貼り合わせたものを袋状とし、容器本体2の供給口2aおよび注入口2bにシール状態で固着されている。この内容器3はガス透過性を防ぐとともに容器本体2の全体容積に対する燃料容積率を高めるようにその内容積が設定されている。

【0026】

外側容器本体2と内容器3との間に封入する圧縮ガスGとしては、空気もしくは窒素、二酸化炭素等を用いる。窒素等の酸素を含まないガスの場合、内容器3を透過した微量酸素による燃料（特にメタノール）の酸化を防ぐことができる。圧縮ガスを用いるため、液化ガスを用いるのに対し、容器本体2の温度上昇に対する圧力変化が小さくなる。

【0027】

前記バルブ機構4は、容器本体2の一部（図で上部）に突起筒状に形成された供給口2aの内部に設置されており、その具体例を図2に基づいて説明する。このバルブ機構4には流量調整機構7およびレジスタンス機構8が付設されており、図2(a)の実施形態では、容器本体2の供給口2aの開口部分（燃料電池との接続部位）に、流量調整機構7（具体的構成は不図示）が設置され、その底部側にバルブ機構4が設置されている。一方、図2(b)の実施形態では、容器本体2の供給口2aの開口部分（燃料電池との接続部位）に、バルブ機構4が設置され、その底部側に流量調整機構7（具体的構成は不図示）が設置されている。バルブ機構4の基本構造は、図2(a)と図2(b)で同様に構成されており、同じ符号を付して説明する。

【0028】

バルブ機構4は、容器本体2への固定部材としてのガイドネジ41、燃料の供給を開閉する弁体としてのガスケット42、開閉のための作動部材としてのバルブシステム43、閉方向への付勢部材としての樹脂スプリング44、樹脂スプリング4を収容するバルブハウジング45で構成され、全て非金属材料で形成されてなる。

【0029】

そして、前記容器本体2の供給口2aに対し、バルブハウジング45が装着される。図2(b)ではバルブハウジング45の底部に予め流量調整機構7が組み付けられている。このバルブハウジング45に樹脂スプリング44が挿入され、その上にバルブシステム43が挿入され、このバルブシステム43の外周にガスケット42が嵌着され、バルブシステム43の上方よりガイドネジ41が容器本体2に螺合されて組み付けられる。バルブシステム43は樹脂スプリング44の付勢力によって上方のガイドネジ41へ付勢され、ガスケット42の外周部はガイドネジ41によって容器本体2に保持固定されている。

【0030】

上記バルブシステム43は外周に周溝を有し、この周溝の底部に開口された連通細口が中心通路に連通し、中心通路は上端噴出口に開口している。そして、上記バルブシステム43の周溝にガスケット42が嵌着され、ガスケット42の内周面の弾性密着によって連通細口が閉じられて、燃料の供給が遮断される。また、燃料電池との接続に応じて上部側より、図2(a)では流量調整機構7を通して、図2(b)では直接に、バルブシステム43が樹脂スプリング44に抗して押し込まれると、その移動に伴ってガスケット42の内周部が変形して連通細口を開口し、ディップチューブ6からバルブハウジング45内に、図2(b)では流量調整機構7を通して、流入した燃料をバルブシステム43の中心通路を経て上端開口から、図2(b)では直接燃料電池に、図2(a)では流量調整機構7を通して燃料電池に供給するようになっている。

【0031】

付勢部材としての前記樹脂スプリング44の形状は、下端の姿勢を保持する円板状等の支持基部と、上端のバルブシステム43の底部に接触して付勢力を伝達する当接部と、両者を連結する折り返し形状の変形部とで構成されてなる。例えば、この樹脂スプリング44はポリアセタール(POM)で成形される。

【0032】

上記流量調整機構7は、例えば、フィルターの圧縮構造が採用され、燃料流路部にウレタン発泡材等によるフィルターが圧縮状態で配置され、その圧縮率を変化させることにより燃料の流量を調整し、燃料の急激な噴出を抑え、本体機器側での流量調整機構の負荷を軽減させるように構成される。また、バルブ機構4には不用意な開閉作動を禁止するレジスタンス機構8が付設されてなる。図示の場合、容器本体2の供給口2aの開口端の周辺が、バルブステップS無43の先端より外側に形成されてレジスタンス機構8となり、他部材がバルブシステム43の先端に接触するのを規制している。

【0033】

注入バルブ5は、基本的には上記バルブ機構4と同様の構成であるが、流量調整機構7は設置しなくてもよい。

【0034】

上記のような燃料容器1では、所定範囲の圧力をもって燃料Fを噴出させ、かつ燃料以外は噴出させないよう容器本体2と内容器3の二重構造となっているため、落下等の衝撃に対する燃料漏れの防止機能がより高まる。また、ノートパソコン、PDAにおいては高いスペース効率の要求に対応でき、小型で収容量が多い燃料容器が構成できる。また、燃料電池と接続するバルブ機構4とは別途に注入バルブ5を備え、燃料容器1を取り外すことなく注入バルブ5に対し外部より燃料の再注入が行えるようになっている。

【0035】

本実施形態の燃料容器1では燃料としてメタノールまたはエタノール水溶液もしくは純メタノールまたは純エタノールを用いているが、固体酸化物型燃料電池(SOFC)や固体高分子型燃料電池(PEFC)の燃料としてはジメチルエーテルも使用可能である。このジメチルエーテルは常温でガス状であり、圧縮して液化ガスとして注入した際にはそれだけで噴出圧力を有するため、容器本体2と内容器3との間への圧縮ガスの封入が必要とされない場合がある。また、ジメチルエーテルは高圧となるため、耐圧構造とする必要があり、さらに溶解性に対する耐性構造とする必要がある。この場合に、燃料容器1が二重構造であるため、内容器3で溶解性の高いジメチルエーテルに対する耐性および漏れ防止機能を確保し、容器本体2で割れ、変形に対する耐圧構造を確保することができる。

【0036】

図3は他の実施形態にかかる燃料電池用燃料容器1'の概略断面図であり、前記実施形態における注入バルブ5の機能を供給口2aのバルブ機構4に持たせ、注入バルブ5の設置を省略した構造である。その他は図1の前記実施形態と同様であり、同一部分には同一符号を付してその説明を省略する。

【0037】

本実施形態では、例えば前記図2のようなバルブ機構4の開閉作動によって燃料電池への燃料の供給と、燃料の再注入が行えるものであり、燃料の再注入時には燃料容器1'を燃料電池より取り外して行うことになるが、構造の簡素化を図っている。

【0038】

上記のような燃料電池に装着する燃料容器1, 1'の各実施形態によれば、燃料と接触する部品の樹脂化により、メタノール水溶液またはエタノール水溶液などの燃料電池用燃料に金属イオンが混入することなく、噴射材も含まれず、金属イオンの存在が極端に嫌われる固体高分子型燃料電池(PEFC)に対する良好な燃料容器が構成でき、燃料電池の性能を損なうことがないとともに、燃料の再注入により繰り返して使用ができる。

【0039】

図4および図5は前述の燃料電池用燃料容器1, 1'における内容器3内の燃料が減少

した際に、燃料を再注入するのに使用する注入用燃料容器の2つの実施形態を示す概略断面図である。

【0040】

図4に示す注入用燃料容器10は、容器本体12、可撓性袋による内容器13、バルブ機構14（ノズル機構）、レジスタンス機構15、ディップチューブ16を備え、基本構造は前記燃料容器1, 1' と同様であり、内容器13の内部に燃料Fを収容し、容器本体12と内容器13の間には噴出用の圧縮ガスGが封入され、バルブ機構14を燃料容器1の注入バルブ5または燃料容器1' のバルブ機構4に適用して接続し、収容した燃料Fを圧縮ガスGの圧力で注入するようになっている。

【0041】

この注入用燃料容器10における封入された圧縮ガスGの圧力は、前記燃料容器1, 1' における圧縮ガスGの圧力すなわち再注入される燃料容器での燃料圧力より高く設定され、注入用燃料容器10内の燃料残量が少なくなっていても、十分に燃料容器1, 1' 内へ燃料の注入が行えるようになっている。

【0042】

バルブ機構14は、前述の図2に示すバルブ機構4と基本的には同様であるが、そのバルブシステムの先端が突出して、前記燃料容器1におけるバルブ機構4のバルブシステム43を押圧して通路を開作動することで注入するようになっている。

【0043】

レジスタンス機構15は、例えば、バルブ機構14の外周に筒壁が形成されて不用意なバルブ機構14の開作動による燃料噴出を防止するもので、燃料容器1の注入バルブ5または燃料容器1' のバルブ機構4との組み合わせ構造によって、再注入時には障害とならないように設けられている。

【0044】

図5に示す他の形態の注入用燃料容器20は、手動注入式で噴出用の圧縮ガスが封入されていないものである。この注入用燃料容器20は、シリンダ状の容器本体21と、この容器本体21内を気密状態で摺動するピストン状の押出部材22と、容器本体21の先端部に設置されたバルブ機構23（ノズル機構）と、容器本体21のバルブ機構23と反対側を閉塞する蓋部材24と、レジスタンス機構25を備え、押出部材22の後退作動によって内部に収容した燃料Fを、押出部材22の操作部22aの前進移動によって容器本体21内の燃料を加圧し、バルブ機構23を介して燃料容器1, 1' の内容器3に注入するようになっている。

【0045】

また、上記容器本体21には、蓋部材24との接合部に嵌合突起21aを備え、燃料容器1, 1' に接続した際に、その内部に残留している燃料が容器本体21内に逆流した際に、押出部材22が後退して蓋部材24が離脱するのを防止する機能を得ている。

【0046】

上記注入用燃料容器10, 20においても、燃料Fと接触する部品が非金属材料すなわち樹脂にて構成されてなり、燃料Fへの金属イオンの混入が防止される。また、その容器本体12, 21は内容量が確認できるように透明材料で構成している。さらに、容器本体12, 21の形状は任意であって、燃料収容量、携帯性等を考慮して各種形態に構成される。

【0047】

前述の燃料容器1, 1' および注入用燃料容器10, 20における燃料と接触する部品の樹脂材質としては、PE, PP, AS, ABS, PAN, PA, PET, PBT, PC, POM, PEN等が使用できるが、内容物や形状および強度等により選択される。例えば、メタノールに対する耐性を考慮すると、ポリエチレン（PE），ポリプロピレン（PP），ポリエチレンナフタレート（PEN），ポリエチレンテレフタレート（PET），ポリアクリロニトリル（PAN）が優れて好ましく、アクリロニトリルバージエンスチレン（ABS），ポリアミド（PA），ポリアセタール（POM）も使用可能である。また

、エタノールに対する耐性を考慮すると、ポリエチレン（P E）、ポリプロピレン（P P）、ポリアミド（P A）、ポリアセタール（P O M）、ポリエチレンナフタレート（P E N）、ポリエチレンテレフタレート（P E T）、ポリアクリロニトリル（P A N）が優れて好ましく、アクリロニトリルブタジエンスチレン（A B S）も使用可能である。

【0048】

また、ジメチルエーテルに対する耐性を考慮すると、結晶性樹脂であるポリアミド（P A）、ポリアセタール（P O M）、ポリブチレンテレフタレート（P B T）、ポリプロピレン（P P）などで構成される。もしくは非結晶性樹脂であるアセタール、ポリカーボネイト、アクリロニトリルブタジエンスチレンで形成し、その表面にエポキシ樹脂またはポリアミド樹脂をコーティングして構成するのが好適である。

【0049】

成形構造としては、単一材料で成形した単層構造、複数材料で成形した二層（多層）構造がある。二層構造の場合には、内容物が触れる内層部分に、耐性に優れた材料を用い、外層に耐圧性、耐衝撃性に優れた材料を使用し、二色成形、コーティング等によって構成する。

【図面の簡単な説明】

【0050】

【図1】本発明の一つの実施の形態における燃料電池に装着する燃料電池用燃料容器の概略断面図

【図2】バルブ機構の2つの設置例を示す要部断面図

【図3】他の実施形態にかかる燃料電池に装着する燃料電池用燃料容器の概略断面図

【図4】一つの実施の形態における燃料再注入用の燃料電池用燃料容器の概略断面図

【図5】他の実施の形態にかかる燃料再注入用の燃料電池用燃料容器の概略断面図

【符号の説明】

【0051】

1, 1' 燃料電池装着用の燃料電池用燃料容器

2 容器本体

2a 供給口

2b 注入口

3 内容器

4 バルブ機構

5 注入バルブ

10, 20 注入用の燃料電池用燃料容器

12, 21 容器本体

13 内容器

14, 23 バルブ機構

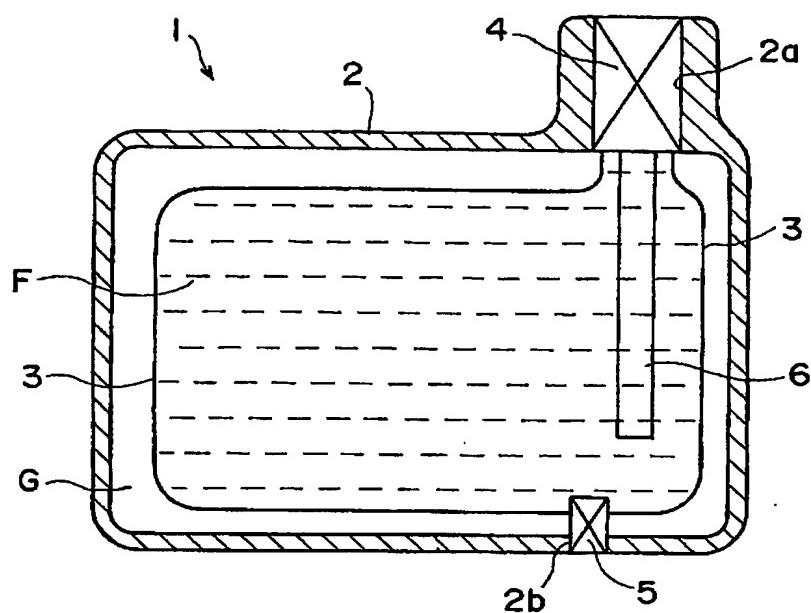
22 押出部材

24 蓋部材

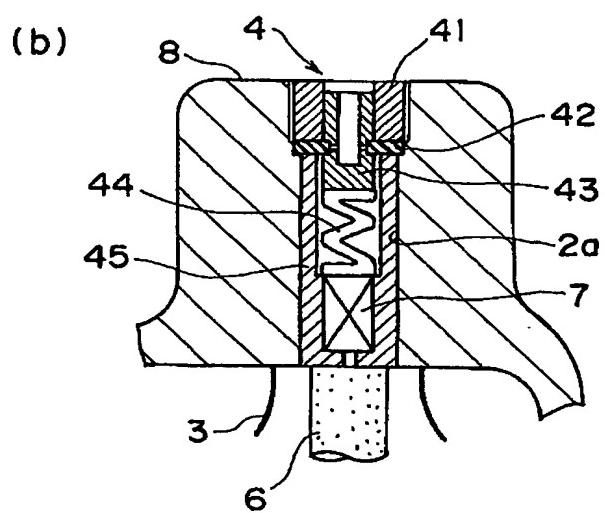
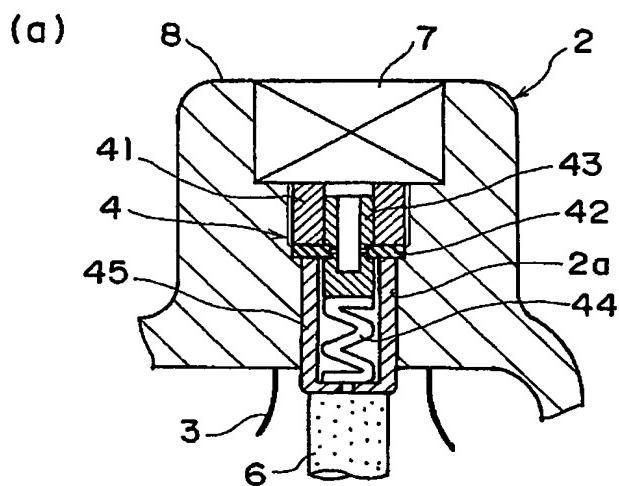
F 燃料

G 圧縮ガス

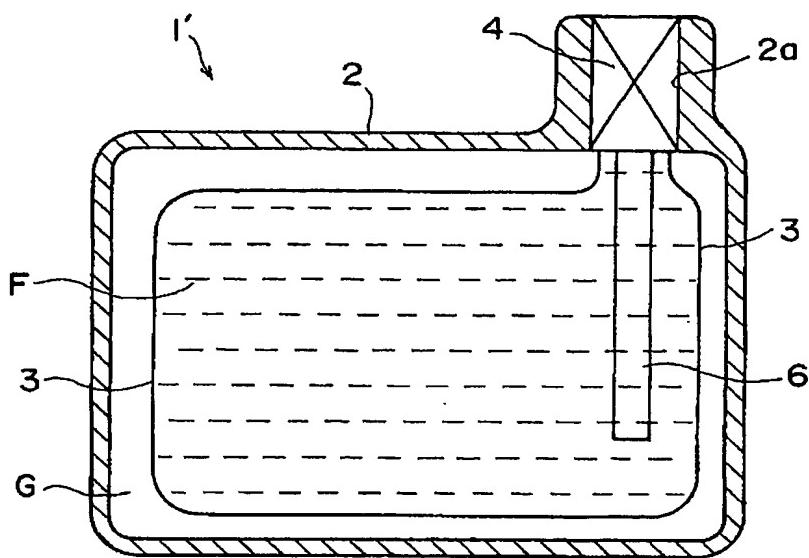
【書類名】 図面
【図1】



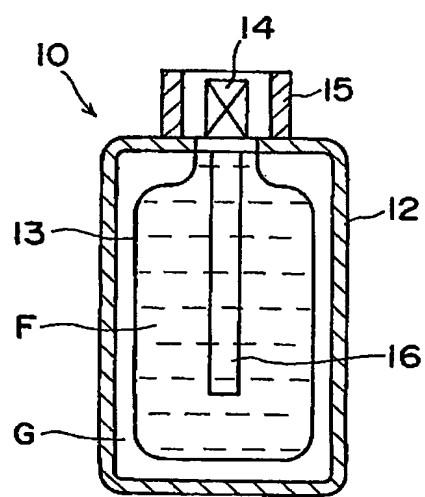
【図2】



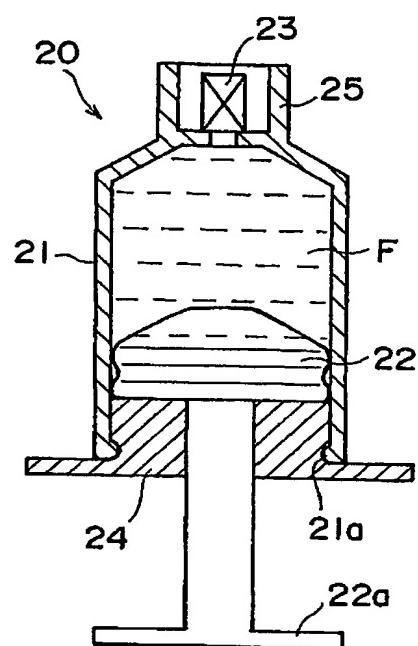
【図3】



【図4】



【図 5】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 収容した燃料電池用燃料に金属イオンおよび噴射材が混入しないと共に繰り返しての使用が可能な燃料電池装着用および再注入用の燃料容器を提供する。

【解決手段】 燃料電池に供給する燃料Fを収容する燃料容器1であって、密閉構造を有する容器本体2と、該容器本体2内に設置され内部に燃料Fを収容する可撓性袋で構成された内容器3と、容器本体2に設置され内容器3の内部に連通し収容した燃料の供給を開閉するバルブ機構4と、容器本体2と内容器3との間に封入した燃料噴出用の圧縮ガスGとを備え、燃料Fと接触する構成部材を全て非金属材料で構成してなる。注入バルブ5を備えたものでは、注入用燃料容器を用いて燃料Fを再注入して繰り返し使用する。

【選択図】

図1

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2003-297049
受付番号 50301374480
書類名 特許願
担当官 第五担当上席 0094
作成日 平成15年 8月26日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成15年 8月21日
【特許出願人】
【識別番号】 000151265
【住所又は居所】 東京都渋谷区笹塚一丁目48番3号
【氏名又は名称】 株式会社東海
【代理人】
【識別番号】 100073184
【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-3 新横
浜K Sビル 7階
【氏名又は名称】 柳田 征史
【選任した代理人】
【識別番号】 100090468
【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-3 新横
浜K Sビル 7階
【氏名又は名称】 佐久間 剛

特願 2003-297049

出願人履歴情報

識別番号 [000151265]

1. 変更年月日 2000年11月 6日

[変更理由] 名称変更

住 所 東京都渋谷区笹塚一丁目48番3号
氏 名 株式会社東海

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.